国内の独立リーグの現状

The actual condition of domestic Independent Baseball League

1K06B163

指導教員 主査 武藤泰明先生

中村 映里子

副査 作野誠一先生

[テーマ・方法]

私は、野球場建設が都市再開発の手段となる可能性について論じる。そして現代における都市とスポーツの関係性および、野球場の存在が都市に与える効果について考察する。研究対象とした「野球場」は、日本のプロ野球またはアメリカの大リーグの本拠地となっている興行的な野球試合の開催される野球場である。

[動機]

都市のシンボルとして圧倒的な存在感を放つ旧広島市民球場が2009年、新設されることになった。新球場が期待されているのは、広島駅周辺都市再開発の中核的役割である。そこで野球場が経済的、文化的に、都市再開発の手段としてどのような役割を果たせるのかについての考察を行うこととした。

[1章]

都市の定義を明らかにした後、現在各都市において都市再開発が求められる背景を、戦後から現在までの都市の変容を踏まえながら述べる。新しい時代に向けた理想の都市づくりにおいて必要とされる要素は、経済力ではなく各都市の文化的な個性である。そして私はその文化的な個性としてスポーツに焦点をあて、スポーツが都市の内外から人を惹きつける魅力になると考える。それを踏まえ、現時点で挙げられる課題点を考える。

[2章]

現在成長分野として位置づけられるスポーツ産業の規模の現状を数値化して明らかにし、スポーツ産業の持つ潜在的可能性を示す。そしてその根拠として人々のライフスタイルの多様化を挙げる。また、過去にスポーツ産業から波及した経済的・社会的な効果の実績を例に挙げ、1章で述べた理想の都市のありかたと結び付けてスポーツが都市活性化に寄与できるということを提唱する。

[3章]

戦後の野球場と都市の歴史について論ずる。また日米における球団経営の違いから発生した、都市と野球場の関わり方の相違点を述べる。そして古くから球場建設の盛んであったアメリカであるが、アメリカの手法日本には馴染まないという考えを述べる。そして最後に野球場建設が都市再開発と連動して行われた具体例を紹介し、野球場建設が都市再開発に寄与した実績を上げる。

[4章]

都市再開発の中核的事業として建設された広島市新球場を具体例に挙げ、新球場建設が行われた経緯を見直す。そして実際に建設された新球場の経済効果を数値化して当初の目標と実際の経済効果を比較し、野球場が都市に与えている経済効果について言及する。また、広島の新球場建設が、長期的な視点で都市との調和を図っていることを象徴する斬新な手法を取り上げ、日本における野球場建設のさきがけになれると

いう考えを述べる。

[結論]

野球場建設を起点にした都市開発は「地元経済の活性化」「ヒトの集積効果」「都市のシンボルとしての効果」の3点の効果をもたらすことができる。そして都市全体としてその効果を得るために、未来の街づくりを考慮して長期的な視点で、かつ周辺地域を商業的・文化的に巻き込んで行われるべき事業であることを示す。野球場は建設後に長期間をかけて都市の内外の人々、民間企業、自治体に育てられることによって都市のシンボルとなりえる場所である。野球場建設とは単なる大規模建設事業ではない。野球場建設は建設される都市の描く将来的な構想を踏まえて行われるべき都市開発事業なのである。そして導き出した結論は、都市との調和を図り、かつ長期的な視点を持って野球場建設を行うことが都市再開発の有力な手段になるということである。